

④野菜・果物

新鮮な野菜・果物はウサギにとって、重要な栄養補給になりますが、通常のペレットと牧草でバランスを取っているなら毎日与えなければならないものではありません。ウサギの好きな野菜・果物は、ニンジン、ブロッコリー、ダイコン葉、三つ葉、パセリ、チンゲンサイ、ラディッシュ、小松菜、りんご等です。

ウサギにとって有害な野菜もあり、キャベツは特に発酵しやすいため子ウサギに与える野菜としては適していません。また、レタスも水分量が多いことから下痢を起こしやすいのなるべく与えないようにして下さい。

表18 主な野菜・果物の栄養価

野菜・果物	水分含量(%)	粗タンパク(%)	粗繊維(%)
キャベツ	88.0	2.6	1.2
レタス	94.6	1.2	0.6
カリフラワーの葉	90.0	2.7	1.0
ニンジン	88.0	1.2	1.1
カブ	91.0	1.1	1.0
ジャガイモ	80.0	2.1	0.5
サツマイモ	69.0	1.7	1.3
セロリ	94.1	0.9	0.6
リンゴ	82.1	0.5	1.3
バナナ	75.7	1.1	0.5

⑤水

水分含量が多い餌を給与している場合には水を与える必要はありませんが、ペレットと水分含量の少ない餌を給与している場合には成ウサギでは**500cc/日程度**(およそ目安として体重の10%程度)の水を飲ませる必要があります。また哺乳中の母ウサギには更に多く与えておく必要があります。給水器のノズルがつまっている、給水ビンが空になっているなどで水が飲めなくなると、ウサギは餌を食べなくなるので注意が必要です。また、水が汚染されていると水を飲まなくなったり、下痢が増えたりしますのでノズルや容器のチェック、洗浄はこまめに行って下さい。

◆全く水が飲めないと環境温度にもよりますが4～8日しか生存できません。
(逆に水さえあればエサなしでも3～4週間生存できます)

表19 環境温度・湿度と飼料摂取量・飲水量 単位:g、ml

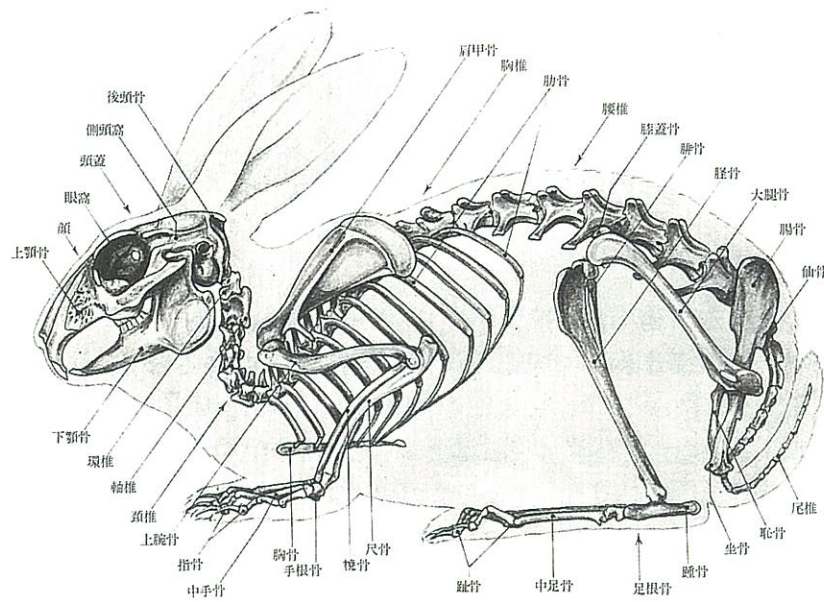
環境	5℃・80%	18℃・70%	30℃・60%
飼料摂取量*	182	158	123
飲水量	328	271	386
1日増体重	35.1	37.4	25.4

資料「the rabbit」 *ペレット

4. ウサギの体と管理

(1) 体

ウサギの骨格は以下のようになっていますが、骨格的には非常に弱いため、持ち上げて落とすなどをした場合に脊髄等を傷め半身不随となる場合もありますので十分に取扱に注意して下さい。また首を押さえる保定器に入れた場合にウサギが暴れて頸椎を傷め、半身不随になることもあります。特に第7腰椎(腰椎の一番尾椎側)は骨折が頻発する部位です。



兎の骨格

図25 ウサギの骨格

原図「兎の解剖図譜」

ウサギの健康状態をチェックするため、以下の項目について注意深く観察する必要があります。また観察は普段から丁寧に行い、変化に気付くことが重要。

表20 ウサギの健康状態チェック項目

項 目	観察のポイント
全 身*	痩せすぎ、太りすぎ、外傷、痂皮
頭	斜頸
被 毛	毛並み、光沢、汚れ、脱毛、前肢被毛の汚れ(鼻汁との関連)
鼻	鼻汁、出血
眼	目脂、涙、貧血、充血、瞼・眼球異常
耳	外傷、痂皮、貧血、充血、耳垂れ
口	涎、出血、嘔吐、不正咬合
肛 門	汚れ、出血、奇形
生殖器	外傷、分泌物、出血、奇形
四 肢	外傷、出血、奇形(湾曲等)、足裏の床ずれ
呼 吸	早い、遅い、深い、浅い、不規則
排泄物	形、大きさ、色、臭気、硬度、量の変化

行 動

活動性、旋回、痙攣、姿勢その他異常行動

*肉垂のヒダの裏などは見過ごしやすいのでチェックすること

痩せすぎ、太りすぎについては、見るだけではなく体重を定期的に測定したり、背中を触ってみて脂肪や筋肉の付着状況を確認すべきです。また、現状がどうかよりも「太ってきた」「痩せてきた」という状態の変化の方が重要です。

→ヒトに置き換えて考えると分かりやすいのではないのでしょうか。太めの人と細めの方はそれぞれ健康ですが、太めの人急に痩せたり、細めの人急に太った場合はどこかが悪い可能性があると思われるようなものです。

(2) 歯

ウサギの歯は、切歯も臼歯も28本すべてが成長し(伸び)続けます。上顎に4本の切歯(前に2本、後に2本)、下顎に2本の切歯があって互いにかみ合っており、この切歯は、年間10～12cmも伸びます。したがって、木などの固いものを噛んですり減らす必要があります、固い餌が給与されない場合は、ケージ等をかじります。

◆ウサギの歯式

切歯 2/1 犬歯 0/0 小臼歯3/2 大臼歯 3/3

・不正咬合

固い飼料や木などをかじれない場合やかみ合わせが悪い状態を不正咬合といい、噛んでも歯がすり減らない場合は切歯が伸びすぎます。切歯の不正咬合は遺伝的な因子が関係していることが多いため、交配には用いない方が賢明です。また、遺伝的な要因以外に、不適切な餌、老化、感染や外傷などが原因として挙げられます。伸びすぎた場合は、1カ月ないし2カ月に1回くらいのペースでニッパーで切断をしてやり、正常の長さに切断します(神経が走っていないので爪を切るのと同じでウサギは痛くない)。奥歯の不正咬合は、分かりにくいのですが食欲が低下した場合には確認した方が間違いがありません。この場合、舌や頬を傷付け潰瘍ができてエサを食べると痛いことによる食欲不振の原因となります。治療としてはヤスリで削るか奥歯を抜くしかなく、淘汰すべきです。

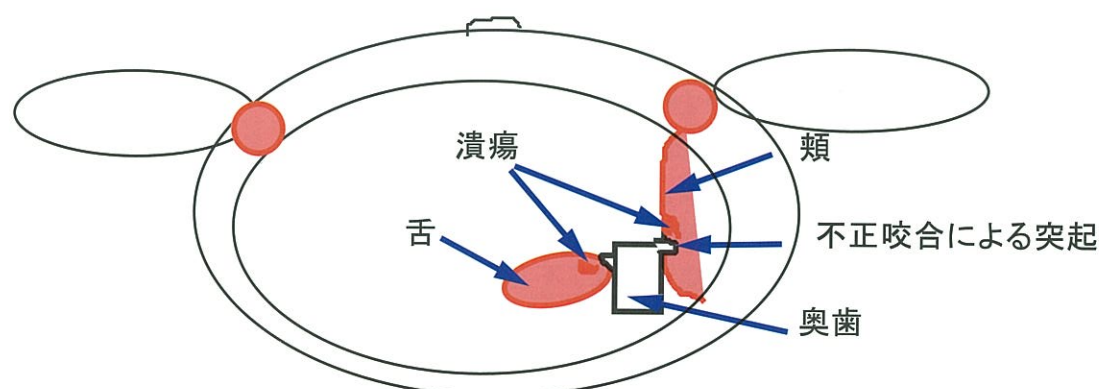


図26 奥歯の不正咬合

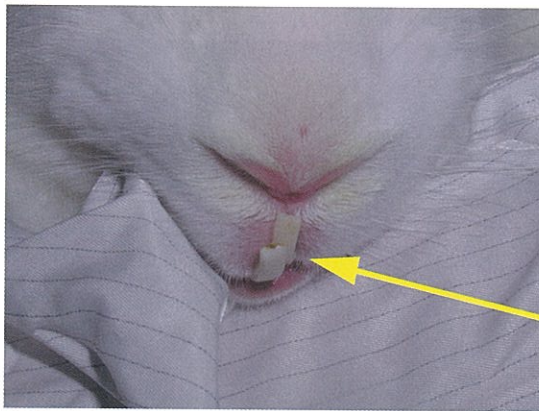


図27 不正咬合により伸びた切歯

(2) 爪

土の上で放し飼いに飼っているウサギは爪が伸びすぎることはまれですが、ケージで飼っているウサギでは爪が伸びすぎてしまうことがあります。伸びすぎると爪が割れたり、爪が曲がったりするので爪を切る必要があります。爪切りは、猫用や犬用のものを使いますが、ウサギの爪には神経も通っているので切るときは爪を光に透かしてみてピンク色に見える部分（血管の通っている部分）より3, 4mm先を切ります。

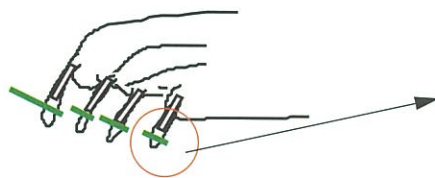
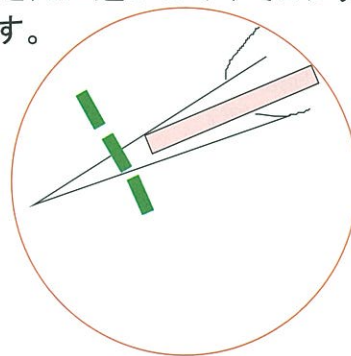


図28 爪の切断部位



(3) 毛

①換毛

日本白色種は春(3-4月)及び秋(9-10月)に換毛するため、この時期には受胎率が低下します。これはSPF施設において温度調整や日照コントロールが行われていても起こります。

◆生後7-8カ月令のウサギは換毛しないため、換毛期に7-8カ月令になるように種ウサギを生産するというのも一つの方法です。

②アンゴラの毛刈り

長毛種であるアンゴラの場合、毛刈りが必要である。毛を刈らないと、餌を食べなくなります。毛刈りは、初回は生後64日で行い、2回目以降は73日間隔で行います。

アンゴラの73日間隔での平均産毛量は下表のとおりです。

表21 アンゴラ産毛量

(長野牧場における昭和50年～58年度成績 但し昭和53、54年を除く。)

性別／年度	昭 50	昭 51	昭 52	昭 55	昭 56	昭 57	昭 58
雄	112.5g	114.9g	117.7g	150.6g	127.0g	122.9g	137.4g
雌	107.1g	117.0g	122.0g	104.6g	138.0g	141.4g	145.1g



〔剪毛前〕



〔剪毛後〕

図29 アンゴラウサギの毛刈り

剪毛については長野牧場では通常以下の順番で行います。

例1；背中→脇腹（左右）→後肢→胸→顔→腹部→前肢

例2；背中→脇腹（左右）→頬→喉→胸→前肢→腹→内股→後肢→尾→頭→耳

〔剪毛の際の注意事項〕

- ・分娩が近い場合は胸や腹の毛は残しておく
- ・皮膚特に生殖器や乳頭を切らないように注意する
- ・ウサギがあきて暴れないように手早く行う
- ・なるべく自然な体位で剪毛するよう心掛ける



図30 アンゴラ用毛刈りバサミ

図の通り、アンゴラ用毛刈りバサミは刃をウサギの皮膚に密着させやすいように刃の部分と指を入れる部分に段差が付けられています。

毛の生えている方向に直角に切ると皮膚を切ってしまう可能性があるため若干傾ける



図31 毛刈りバサミの刃の向き

5. 疾 病

疾病の原因となる病原菌、ウイルス、原虫等はSPF施設で飼うのでない限り環境中に常在していると考えられます。ただし、環境中にこうしたものが存在していても、通常感染はほとんど起こらず、以下の条件が整った場合にウサギの体内で増殖して疾病という形で発現してしまうのです。従って、こうした悪条件にならないように気を付ける、悪条件を取り除くことが予防にもなるということを認識しておく必要があります。

また、常日頃よりウサギを観察しておき異常を早期に発見することが重要です。早期に発